

ASIA ARTIST ASSOCIATION NEWS No. 12号 2022 年12月14日発行

亜細亜美術協会ニュース

編集発行責任者: 一般社団法人亜細亜美術協会 理事長 高田 哲雄
〒110-0011 世田谷区赤堤5丁目2番9号下高井戸岡田ビル 102
TEL 03(6304)3620 FAX 03(6304)3621 <http://www.agenten.jp>



東京都美術館正門から見た第57回亜細亜現代美術展会場

- ◆ 第57回展を振り返って P1
- ◆ 受賞者の言葉 P2~P5
- ◆ 文部科学大臣賞及び東京都知事賞授賞作品 P5
- ◆ 同人の展覧会報告 P5~P6
- ◆ 「型紙で作品抽象を作ろう！」ワークショップを実施して P7
- ◆ 【令和5年度展覧会予定】 P7

編集委員長 遠山 正四 委員 村井利枝子 高田哲雄 撮影協力 平野純子

第 57 回展を振り返って



皆様、国際公募第 57 回亜細亜現代美術展へのご出品と運営へのご協力大変ありがとうございました。9 月、10 月と大半が曇りまたは雨でしたが、なんと亜細亜展が始まると同時に全日晴天が続きました。入場無料も功を奏してか、本協会始まって以来一日の入場者数が最多記録を達成しました。また一般出品者も増加し、絵画、彫刻、工芸すべての部門において力強い新進作家の息吹を実感しました。そして主役は亜細亜の出品者一人ひとりです。皆様の熱意を是非第 58 回亜細亜現代美術展へ繋げて、この不安な時代を”亜細亜の活力”で明るく照らしてください。

代表理事 高田 哲雄



受賞者の言葉

「望郷」 日本画 F100号 亜細亜大賞

理事 中嶋 虎威

象徴的な富士山を描こうと思いました。富士山と云えば、霊峰として、多くの作品を描いた日本画の大家横山大観が有名ですが、その大観は、絵を見るには、絵の背後の魂を見てもらいたいと云っていますが、ただ形を描いただけでは本当の富士は表現できないと解釈しています。魂の入った富士山の絵が描けるように精進して参りたいと思います。今回の作品のテーマ「望郷」は、ロシアのウクライナ侵攻が発端となりました。日本の風景ですが、赤富士、荒い浪、黒い雲、青と黄色、二羽の鶴、これらが何を象徴しているか、自由に想像を巡らせて頂ければと思います。「望郷」とは、故郷に思いをはせることと広辞苑にあります。一日も早く平和が来ますよう、祈りの作品でした。



「青島海岸の浪」 油彩画 140 × 290cm 文部科学大臣賞 海外理事 呂 忠平

“人は天地の塵ぞ”中国古代の孔子が残した一句、人生数十年後百年後残ったもの、肉体はもう無い。残ったのは精神上的の哲学思想、文化上芸術、絵画、彫刻、工芸、書道、古人の足跡で学習しながらわたしは 絵画の人生を選択しましたが、楽しいことも、辛いこともありました。今回第57回亜細亜現代美術展に出品した作品《青島海岸の浪》は去年の夏8月15日から約2週間青島市海岸線付近のホテルに泊まり、その美景を見て感動しました。浪の響を聴きながら空の白雲を見て、飛翔する鷗の影…浪と海岸岩の衝突波の花、その場で絵に描き込みました。作品完成の時わたしはその場で思わず歌い出しました…。

今回“文部科学大臣賞”を受賞しましたが本当に感謝しており、心温まる気持ちで一杯です！わたしは今までの絵画人生中約2000枚の作品を描きました、世界各地の個展も40回以上やりました、これからも 絵画創作の日々をおくりこの世界に良い作品を残す為に一生懸命頑張ります。”一般社団法人亜細亜美術協会”入会からもう30年以上になりました。年二回展覧会に出品し、私自身も“亜細亜現代美術展”の主催者側として中国の上海市美術館、上海市立図書館、南京市博物館、蘇州市美術館、江蘇省美術館と共催し、文化交流、芸術交



流の活動を長年やっていますが、本当に嬉しい人生です。これからも絵描き人生を歩み続けるのでよろしくお願いします。亜細亜美術協会理事の仕事も一生懸命やります！加油(ファイト)！亜細亜美術協会！

《受賞感謝》身に余る賞を戴き恐縮に存じます。加齢により如何程の進化があるのか、わかりませんが、近年幼児が初めて描く丸い顔から手と足が出た、頭足人のお父さんであったり、お母さんであったり、太陽であったり、チューリップであったり、の幼児時期の現象が私もそうであったと思います。何故か私の中でチューリップが蘇って、形の、可愛さ、清清しさ、単純さに引かれ、モチーフにする様になった。今後心の有り様がチュー

リップにいかなる変容を表すか？終わるか？今は空家状態です。亜細亜現代美術の先輩諸士に育てられ、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



「G I」 前衛書 90 × 90cm 奨励賞

竹内 華抄

亜細亜展、十年前の展覧会で、知人の作品に魅了され、その後度々、楽しませて頂きました。迫力ある大きな絵画、美しさ、発想と表現に鳥肌が立ったのを憶えています。今回、前衛部門を企画と聞き迷わず出展しました。まさかの入賞です。とっても嬉しかったです。絵画展に前衛書を、どう制作するといいのだろうと悩みました。絵画の中に同化し、鮮やかな色の世界の中でモノクロ、墨色を生かしたい。線質が文字の意とする表現になれば伝わるかも、と想像しながら楽しみました。ドキドキで、会場入り、圧倒された美波、富士、宇宙、柔らかい彩り、工芸の数々、美術のジャンルすべてが、独自性を持って並んでいます。何か新しい感覚を、ウキウキと捉えているのは、参加できた喜びでしょうか。この一步に感謝いたしております。



「期待」彫刻 FRP H91 × 22 × 23cm 南京市博物館賞 会友 高曠寓



2022 年は、コロナが依然として人類を悩ませていたが、私たちは一生懸命に学び、働き、生きている。同時に、世界の経済、文化、観光も回復の過程で努力して前に進んでいる。

アジア現代美術展は中日韓などアジア諸国のアーティストに素晴らしい展示舞台を提供し、各国のアーティストに才能を発揮する空間を与えている。第 57 回目の亜細亜現代美術展に参加させていただくことになりました。今回の出展作品「期待」は、コロナに打ち勝つ

人類の決意を描いている。手で髪を軽く撫で、強い目でじっと前を見つめていた。逆境にあっても、明日の人生への自信と活力に満ちている。強くて勇敢な態度で人生の挑戦を立ち向かい、そして明日は良くなることと信じている。今回の作品は出展して受賞することができて、呂先生と遠山先生の私に対する長期的な支援と配慮を切り離しては考えられない。辛抱強く作品の欠点を導き出して、私に多くのことを教えてくれた。来年も作品作りに真摯に向き合い、亜細亜現代美術展への参加を目指して一所懸命に頑張っていく。

**「おひなさま」磁器人形 H38×70×30cm 中華人民共和国駐日本国大使館賞
常任委員 近 孝子**



第57回という歴史ある公募展と国交50周年という記念すべき年にこのような賞をいただいた事に感謝申し上げます。出品作品はヨーロッパで18世紀頃からマイセン等で制作されていた磁器レースドールの手法を使い、日本の和と合体させる事が出来ないかと試行錯誤の結果作成したものです。原型、モールドを作成、磁器土をモ

ールドで鋳込み、出来たものに綿レースに磁器土をしみこませたものを着せ付け、1200℃～1300℃で焼成します。綿レースが焼け落ち、磁器土のみ残ります。そのものに釉薬をかけ、上絵付を経て出来上がります。このように手数のかかる作品は現代の人々には後継者が育ちません。亜細亜現代美術展においてこの手法を認めていただけたことは、たずさわる者にとってとてもはげみになります。世界はコロナ・戦争という禍いの中にあってアートが人々に安らぎをあたえ必要であり、公募展はアーティストの育成にとって素晴らしい役割となっていると思います。今後亜細亜のみではなく世界に誇れるアーティストをみい出しアートの世界に貢献していただけたこと事を願っています。

「初夏の水面」ステンドグラス H90×130×40cm. 新人大賞 鈴木 孝

この度は、伝統ある亜細亜現代美術展に初めて参加させて頂いた上に「新人大賞」まで頂戴し感激しております。有り難うございました。個人的な感謝と同時にステンドグラス制作に関わるものとして、工芸部門でステンドグラス作品を認知して頂いたことを大変有難く感じています。趣味で始めたステンドグラスですが、その魅力に取りつかれて四半世紀になろうとしています。魅力はガラス自体の持つ美しさと、光による色と煌きの無限の変化の妙にあります。伝統的な技法に加えて新しい技法を工夫し、表現の幅を広げていこうと努力している毎日です。新人大賞を頂いたことを糧として、新たな気持ちで精進してまいります。終わりに、亜細亜現代美術展の益々のご発展をお祈りしております。



「summer」 彫塑 H58 × 50 × 45cm 優秀賞

菊地 トモヒロ

6月で60歳になり、今後の仕事の転換を考えるようになりました。今まで商業美術で仕事をしてきました。広告、出版等の立体イラストレーションです。制約の中での表現です。ですが、60歳を機会にもっと制約のない制作をしたいと思うに至りました。手始めに今までのオリジナル作品がこの世界でどう評価されるかを知りたく、亜細亜現代美術展に出品しました。結果、優秀賞！まさか賞を頂けるとは思っていなかったので、とてもいいスタートをきることができました。これからは、もっと自由に、もっと楽しく自分を表現していきたいと思います。



【REVIEW】文部科学大臣賞及び東京都知事賞授賞作品

総合審査員（美術評論家）清水 康友

『青島海岸の浪』 油彩画 140 × 290cm 呂 忠平 文部科学大臣賞 (2 ページに作品掲載)

横長の画面を生かして打ち寄せる波濤と遠方の崖、前景の岩と白い波飛沫、小さな水鳥、水平線上の雲を見事な描写力で表現した。ワイドな画面に展開する作品は見る者に迫り、強い臨場感を生みダイナミックさを伝える。文部科学大臣賞にふさわしい秀作である。

『Tulip 5』 ミックス技法 変型100号 阿部 永次 東京都知事賞 (3 ページに作品掲載)

対の画面に一輪ずつチューリップをシンメトリカルに描いた。キャンバス地に彩色し、これをカットして画面にコラージュする。簡潔な造形にピンク主体の色調が美しい。描く、貼る、引っかく事で画面を成立させた技術と、造形感を評価する。

同人の展覧会報告



神の舟石(日光足尾) 水野真

水彩パステルで風景「舟石」を初めて発表します。合せて身近なモチーフの展示です。ご高覧頂ければ幸いです。



◆会期 2022年8月26日(金)～30日(火)

◆会場 街のギャラリー ファミーユ (甲府駅前)

※入館料 100円 (当日券 500円)

栃木支部展覧会

理事 湯澤 幸子

8月に亜細亜美術協会名誉理事「大森弘作品」展を皮切りに、9月には第20回記念「アートグループ点・線・面」展を、11月には「森の会」展を開催致しました。「森の会」展は、40周年であることから元会員にも参加を頂き、特に亜細亜同人には、亜細亜本展に出品した大作も出展して頂き1人3点とさせて頂きました。

結果、19名参加、約80点の展示となり、とても立派な記念展にすることが出来ました。これも、亜細亜美術協会があってこそその賜物と思っています。

キテミテ中之島 2022 会友 高曠寓



(駅から始まるアートフェス) 会期：2022年11月26日～12月25日

主催：京阪ホームディグス (株) 京阪電気鉄道 (株) 中之島高速鉄道 (株) DESIGN DOT 【出品者】出品者多数

数(約1,500点)、彫刻部 高曠寓氏の出品数：5点



2022 ASAHI 国際美術交流展

客員理事 尹 錫培

日時：8/11(木)～9/4(日) 場所：古民家美術館飯岡(千葉県旭市)

主催 古民家美術館長 尹 錫培 後援：旭市教育委員会、(株)ソベロフト、(社)亜細亜美術協会



開催を祝して、20人余りの日本作家と30人余りの韓国作家が集まり、油絵、水彩画、彫刻、工芸、韓国画など50点余りの作品を同じ場所で一緒に展示できるように参加していただき日本と韓国の作家様に感謝します。また、今回の展示が開催できるように見えないところで助けてくださったスポンサーと多くの方々にも心から深い感謝の言葉をお伝えします。3年間も続いてきたコロナが私たちの社会多方面にわたって

多くの影響をもたらしたのは事実で、文化・芸術の国際交流までもそういう制約で自由にはできなかったのですが…。しかしコロナがもたらしたこれまでの空白を「2022 ASAHI 国際美術交流展」が破り、「芸術文化の国際交流」に始動をかける糸口となることを祈ります。今回開催された「2022 ASAHI 国際美術交流展」を皮切りに、次の展示にはより多くの国が参加し、芸術文化の国際交流を通じて国家間のイデオロ



ギーを超えて世界が一つになる平和な時代が開かれることを期待します。ありがとうございます。



「型紙で抽象作品を作ろう！」ワークショップを実施して

事務局 比留間 健一

20 世紀を代表するドイツのアーティスト、ヨーゼフ・ボイスは、「すべての人間は芸術家である」という概念を提唱しています。それは、展覧会主催者側は、誰でも気楽に作品を作る環境整備等を整えるべきである。と言っているようにも聞こえて来ませんか？

当初は「水彩色鉛筆」によりワークショップを考えました。色々な種類の水彩紙を体験することによる擦れ滲みの違いが面白いのでは考えました。しかし、体験してみたところ難しい事と、色を楽しんで貰いたいという思いに至り「パステル」に変更して 1 回 4 人、1 日 2 回、約 1 時間を掛けて実施することに致しました。結果、図のとおり、合計 48 名の方が作品作りを楽しんで下さいました。特に土日は企画展に来られた人や、親子連れの人が参加して下さい、参加者とアートについての会話等も出来ました。数年ぶりに帰って来た東京都美術館の魔力は素晴らしいものがあります。今後も、是非、何らかの企画をしてアートを広める活動をして頂きたいと思います。



月日	9 月			10 月				参加 人数 合計
	28 日	29 日	30 日	1 日	2 日	4 日	5 日	
曜日	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(火)	(木)	
午前	4	2	5	3	2	0	3	19
午後	2	2	2	8	8	7		29
計	6	4	7	11	10	7	3	48

【令和 5 年度展覧会予定】

●「2023 新春 亜細亜小作品展」

場所：東京芸術劇場 B1 アトリウム西 AM 10:00 ~ PM 5:00

会期：1 月 24 日（火曜）～ 1 月 29 日（日曜）初日は PM1:00 から最終日は PM3:00迄

●第 58 回亜細亜現代美術展

場所：東京都美術館 会期：9 月 27 日～ 10 月 4 日

搬入日：9 月上旬予定、陳列：9 月 26 日（火）/ 出品：1 人 2 点迄

【事務局より】

- ・ 2023 年度年会費について（1 月発送、3 月迄の納付ご協力願います。）
- ・ 2023 年度総会（3 月に実施します。会員以上参加をお願いします。）
- ・ 第 58 回亜細亜現代美術展募集要項について：5 月発送、8 月末日締切ご協力願います。
- ・ 【皆様のご意見やご希望をぜひお寄せください。】

FAX、郵送、またはメール宛てに asia3art@js7.so-net.ne.jp

【お悔やみ】

常任委員の田中昭雄様が昨年 12 月にご逝去されました。総合審査員の佃 堅輔先生が 2022 年 7 月 9 日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。